シラバス参照

授業科目名	高次脳機能治療学
単位数	1
授業形態	講義
講義コード	6204
授業担当者氏名	岡部拓大(オカベ　タクヒロ)

授業の到達目標（ディプロマポリシーとの関連）	1.高次脳機能障害の種類，原因，リハビリテーションについて説明できる.(DP1，3) 2.臨床的に頻度の高い高次脳機能障害（失語，失行，失認，空間性障害，注意障害など）の特徴や日常生活に及ぼす影響を説明できる.(DP1，3) 3.各種の高次脳機能障害に対する評価とその方法を説明できる.(DP4，5，6) 4.各種の高次脳機能障害に対するリハビリテーションの実践課程と療法士の役割について具体的に述べることができる.(DP4，5，6，8)
授業概要	高次脳機能とは，大脳皮質の機能そのものです．植物機能により生体を維持する機能ではなく，社会生活を営む人間特有の最も高い機能であるとも言えます．大脳生理学などの医学の進歩により大脳の機能が少しずつ解明される方向にありますが，そのほとんどは未だに解明されていないと考える方が妥当です．しかし，脳血管障害などの疾患による様々な症状と臨床医学的解析から高次脳機能障害の臨床像についての分類，診断，さらにはリハビリテーション医学的アプローチも研究されつつあります．本講義ではこれらをふまえ，高次脳機能障害の各症状の特徴やそれに対する評価・治療について理解を深めます．
教育課程内の位置づけ	リハビリテーション学科　作業療法学・理学療法学専攻　専門教育科目　専門科目　作業療法学・理学療法学共通科目　3年　選択
授業におけるアクティブな特徴	

特徴	該当
A：課題解決型学習（PBL）企業、自治体等との連携あり	なし
B：課題解決型（PBL）連携なし	なし
C:討議（ディスカッション、ディベート等）	あり
D:グループワーク	あり
E:プレゼンテーション	あり
F：実習、フィールドワーク	なし
G：双方向授業（ICT活用なし：対話型、リアクションペーパー等）	あり
H：双方向授業（ICT活用あり：クリッカー、manaba等）	あり
I：反転授業	なし
J:外国語のみで行われる授業	なし

授業計画

第1回	高次脳機能障害の診療、基礎知識について
第2回	高次脳機能障害の症状および評価・治療①　失語・失読・失書
第3回	高次脳機能障害の症状および評価・治療②　失行
第4回	高次脳機能障害の症状および評価・治療③　行為・行動の障害
第5回	高次脳機能障害の症状および評価・治療④　失認
第6回	高次脳機能障害の症状および評価・治療⑤　空間性障害
第7回	高次脳機能障害の症状および評価・治療⑥　注意障害 総括

授業外学修予習（事前学修）	各授業	毎回の講義で、次回の授業へ向けた準備と予習のポイントについて具体的に説明します。
	30分	

授業外学修 復習（事後学修）	各授業 60分	毎回の講義後に学習した内容を復習し、要点を整理して下さい。
評価方法	クイズ：20% 期末試験：80%	
教科書等	石合 純夫「高次脳機能障害学第2版」（医歯薬出版）	
課題に対するフィードバックの方法		
その他	高次脳機能治療学に関する学びを深めるため，授業のなかで理解が難しかった内容や疑問に思った内容は，授業中も含め積極的に教員へ質問してください。	
授業担当者の実務経験の有無	実務経験あり	
授業担当者の実務経験の内容	病院や介護老人保健施設で作業療法士として高次脳機能障害のリハビリテーションに従事した経験を有する教員が，高次脳機能障害に対する作業療法の実践，現状と課題について解説する.	
ファイル		